

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日平成 19年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170101208		
法人名	オーロラ・ケアネット株式会社		
事業所名	うららの郷ミニ大通・グループホーム		
所在地	札幌市中央区北3条西12丁目2番2号 (電話) 011-207-6660		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】 (平成19年11月23日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算5.9 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	3 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000円 暖房費(11~3月) 5,000円
敷金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000)円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,300 円

## (4) 利用者の概要 12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	87 歳	最低	84 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛育病院 札幌中央ファミリークリニック ラビット歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

うららの郷ミニ大通・グループホームは、地下鉄駅から徒歩7分の場所に位置しており、近くには北大植物園とミニ大通公園がある。ホームは、同経営の複合型介護事業所の3階にあり、内部は、高齢者の動線を配慮したゆったりとした造りで、明るく広々としている。管理者は職員の育成に熱心に取り組み、利用者の安心と安全を大切に思い、職員と共に良質なケアを提供している。職員の異動が少ないので、利用者とは馴染みの関係が築けており、利用者の思いを「本人本位」の視点でとらえ、日常のケアに活かしている。利用者は、自分の得意なことを手がけ、喜怒哀楽を表現しながら、自分のペースで暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善を促された4項目は、運営者・管理者・職員の真摯な取り組みで、全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義について、管理者から職員に具体的に説明し、全員で取り組んだ。また、そこでの気づきを日常のケアに活かし、質の向上を目指し職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、概ね3ヶ月に1回開催されている。構成メンバーとして家族や職員も出席し、出された意見や要望をサービス向上に前向きに活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には、利用者の様々な要件について、個別に積極的に報告し、気軽に話し合えるよう努めている。対話を重視しており、苦情・意見箱は設置していないが、苦情相談窓口や外部苦情申し立て機関の連絡先については明示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	町内会に入会しており、地域の幼稚園の行事に参加したり、清掃活動等行っている。市内中心部という地域性もあって双方向関係構築には困難な部分もあるが、管理者は参加できる地域活動の情報収集を今後の課題として捉えている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの母体法人の経営理念に加え、認知症高齢者の視点に立ち、グループホームとしてのケアを見据えた理念を、職員全員で作り上げた。地域との関係性についても、運営理念に盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの入り口と居間の目に付きやすいところに掲示してある。職員への意識付けは、申し送り時や会議の時に全員で唱和し、日々のケアの振り返りと実践につなげている。	○	現在、理念のさらなる共有化に努めているところである。理念を具体化し、実践の場で、介護の質が更に高まっていくことを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の幼稚園の行事に参加したり、ゴミだしの活動を行っているが、まだ積極的な関わりとまでは至っていない。	○	町内へ、グループホームの広報紙を配って啓発に努めたり、運営推進会議や町内会議を活用して、出来ることを探りながら、地域住民の一員として、必要とされる役割を担うことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は、評価の意義を誠実に職員に伝え、今回の自己評価にも職員全員で取り組んだ。前回の外部評価で指摘された「改善点」は、全て改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね、3ヶ月に1回開催している。構成メンバーとして家族や職員も参加し、事業所からの報告に止まらず、家族からの質問・意見も受け、サービス向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、中央区の「グループホーム連絡会」の代表を務めており、年3回の会議を通し、市の介護保険課職員・グループホーム担当者との連携はとれている。市職員の来訪にまでは至っていないが、今後、行き来できる体制作りを検討していく予定である。		
トレイル					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には、心身の状況や金銭管理などについて、きめ細かに報告している。利用者一人ひとりの1年間の暮らしぶりは、担当職員が個別アルバムを作成して、クリスマス時期にサンタクロースにふん装した運営者から渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、積極的に、利用者の様々な要件について、個別に充分に話し合うように努めている。意見が出た時には記録し、職員間で話し合いを深め、課題を検討している。現在、意見の出やすい方策を検討中である。	○	意見収集として、無記名や○×方式のアンケート調査や満足度調査などの方策を考えながら、家族等が率直な意見、不満・苦情、質問が出せるような環境作りへの努力に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の開設から約3年になるが、職員の異動は1回のみであり、利用者との馴染みの関係は出来ている。異動があったときは、広報誌に載せたり、家族等の来訪時に紹介をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修については、管理者に任せられ、年間計画に基づいて参加している。外部研修への参加は勤務扱いとし、参加費は会社負担となっている。研修参加報告は、月1回の月例会議で全職員に伝えられている。	○	研修参加への職場環境が整っているため、今後は、職員個々の段階的な年間計画を立て、更なるスキルアップにつなげることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互の見学会、区の介護職員研修、他法人のグループホーム研修会・講習会等に参加し、同業者間での交流を図っている。	○	自主的に事例検討に取り組んでいる職員の姿勢を大切にして、サービスの質の向上を目指す輪を広げる意味でも、公の場で事例検討の発表が出来るような、同業者との交流と連携に期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、出来る限り本人に見学してもらい、納得してから入居してもらうようにしている。入居後は、慣れるまで家族に協力を求め、状況によっては直ぐに帰宅できる体制を整え、利用者が不安の無いように支援している。現在、24時間の体験入居も検討中である。	○	短時間の関わりだけでは、利用者の不安を和らげるのは困難な場合があると思われるので、利用者と家族にグループホームを在りのままに理解してもらうことで、少しでも不安が払拭できるよう、24時間の体験入居の実現を期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、お互いに喜怒哀楽を表現し、利用者から職員が教わったり、励まされたりすることもある。職員が介護上で悩みを持ったときは、ミーティングやカンファレンスで話し合い、全体の介護水準を同レベルに持っていく努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員の馴染みの関係は出来ている。利用者で言葉に出来ない人に対しては、日々の関わりを通して、発する単語・表情の変化・行動などから、思いを把握する努力をしている。家族等には、来訪時と介護計画見直しの時に、アプローチをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、本人の状態をセンター方式でアセスメントし、介護計画原案を作っている。本人の思いや言葉を課題に載せ、家族の意向も入れた内容をカンファレンスに諮り、それを基にしてケアマネジャーが介護計画を作り上げ、家族に提示して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に一度定期的に見直している。利用者の一日の行動・状態・訴えなどを記載した「暮らしの記録」があり、状態が変化した場合には、その都度の話し合いで見直しをしている。見直しには、家族の意見を取り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事情に応じ、通院や個別の希望にそった送迎の同行をしている。食事摂取状況で、栄養不足の利用者には、ホームで点滴をする等、協力医と連携している。また、利用者の希望がある時は、同法人のサービスにも参加できる配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には、月2回の訪問診療と緊急時の診療を受けている。利用者が、かかりつけ医の受診を希望した時には、同行にも応じている。管理者が利用者の健康状態を把握するようにしており、都度、協力医や看護師に相談出来る関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化への対応や看取りの指針を説明しており、文書で同意を得ている。運営者・管理者は、終末期の過ごし方を大切に思い、看取りについて家族と具体的な話し合いを考えているところである。	○	看取りについて、どこまで対応が可能か見極めたいとのことなので、今後はホームとしての指針を、具体的な形で示すことが出来るように、関係者で、更に踏み込んだ話し合いを進めることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にある「その人らしさ」を尊重し、特に、誇りを傷つけるような言動が無いように努めている。職員は、日常のケアを振り返り、対応での言葉に注意を払い、記録類は個人ファイルにまとめて、外部から見えないように保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、着たい洋服や食べたい物など、自分で選ぶ場面を作ったり、美容室へ同行するなど、希望にそって支援している。利用者一人ひとりの好みの居場所を把握し、個人のペースを見守りながら、ゆったりと過ごせるように配慮している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の流れは、五感を刺激する最大のケアと捉え、野菜を切ったり、盛り付けたり、食器洗いや拭くなど、共に作業しながら、出来る事を大切にしている。職員も同じテーブルで談笑しながら一緒に食べ、食事に集中できる関わりを持ち、食べるペースを見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後から夕食前までに支援している。毎日入浴する利用者もあり、午前中の希望があれば対応は可能である。入浴の時間や順番は、体調を観察しながら、利用者一人ひとりの希望にそって支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除、洗濯物干し、ゴミ出し、買出しなど、個々の力に応じた役割がある。おやつ後に皆で歌ったり、オルガンの得意な人が行事の発表の練習をしたり、折り紙や塗り絵をする人がいて、明るく過ごすように支えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、数人で近くの公園や買物に出かけており、車椅子利用者も週1～2回は一緒に参加している。夏には、毎日プランタンの野菜や花の水遣りに出たり、ホームの買物に職員と一緒に出かけるなど、努めて戸外に出る機会作りをしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、ホーム直結の出入り口であるエレベーターに利用者が乗る気配に注意し、職員の連携で鍵をかけないケアに取り組んでいる。以前に、外に出たがる利用者がいたので、職員は半年の間、一緒に散歩して安全に努めていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり、消防署の協力で夜間想定を含め、年3回の避難訓練を実施している。訓練には利用者も一緒に参加しているが、地域住民の協力を得られるまでには至っていない。	○	運営推進会議で、避難訓練での近隣の協力も得られるように働きかけたいとのことなので、今後は、地域住民の協力を得て、避難訓練を一緒に行えるような取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、個人の健康チェック表に記載されている。職員は、利用者一人ひとりの摂取状況を把握して、刻み食やミキサー食の対応も行っている。業務委託の管理栄養士がカロリー計算した食材を目安に栄養バランスと他の食材のカロリーを考え提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく広々としており、浴室・トイレ回りは、利用者に負担の少ない動線に工夫されている。居間には、数ヶ所にソファや椅子が置かれ、利用者は好きな場所でゆったり過ごしている。また、職員と利用者が一緒に作った季節感あふれる作品が随所に飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、各担当職員がそれぞれ手作りでプレゼントした表札が掲げてある。居室は本人と家族が話し合い、使い慣れた家具や愛用品を持ち込み、絵画、動物の写真、家族の写真、壁飾りなど、個人の好みが活かされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。